

第1学年 音楽

第1学年の学習到達目標

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心を持ち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

第1学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	導入 ○さんぽ ○どんなうたがあるかな ○かもつれっしや ◎きいておどってわくわくおんがく ○かたつむり ○ひらいたひらいた	●拍の流れを感じ取って、体を動かしながら、楽しく歌ったり聴いたりすることができるようにする。 ●曲の気分を感じ取ったり表している様子を想像したりしながら、歌ったり、聴いたりすることができるようにする。	○拍の流れにのって、歌ったり、行進したり、遊んだり、踊ったりする。 ○情景や気持ちを想像して歌う。
	<にっぽんのうた みんなのうた> ○なべなべ ◎わらべうた	●身振りや遊びを工夫して、わらべうたに親しむことができるようにする。 ●拍の流れを感じ取って、体を動かすことを楽しむことができるようにする。	○拍の流れにのり、友達と動きを合わせて歌ったり遊んだりする。 ○日本の旋律やリズムに親しむ。
	わくわくリズム ○たんとうんであそぼう ○ぶんぶんぶん ○しろくまのジェンカ ◎ジェンカ ○ポンポンポップコーン	●拍の流れにのって、リズム表現を楽しむことができるようにする。 ●4分音符や8分音符などのリズムを体で感じながら、歌ったりリズム表現を楽しんだりすることができるようにする。	○2拍子の拍の流れに合わせて、歌ったり手拍子や楽器で表現したりする。 ○反復するリズムを聴き取って、身体表現する。
	<にっぽんのうたみんなのうた> ○うみ	●歌詞の表す情景を想像し、気持ちを込めて歌うことができるようにする。	○歌詞の内容から、景色や気分を想像して歌う。 ○拍の流れにのって、大きなフレーズを感じながら歌う。
	どれみとなかよし ◎どれみのうた ○どれみのキャンディー ○ひのまる	●ドレミで歌ったり体を動かしたりして、音高の変化に気付き、階名に親しむことができるようにする。 ●旋律の流れや盛り上がり、フレーズを感じ取って歌うことができるようにする。	○音の高さや音階の順序に気を付けて、ドレミの体操をして歌う。 ○フレーズごとの盛り上がりを生かして、強弱などを工夫して歌う。
後期	こんにちはけんばんハーモニカ ○まほうのど ○あのね ○どんぐり ぐりぐり	●楽器の扱い方や演奏の仕方に慣れたり、ドレミファソの鍵盤の位置を理解したりすることができるようにする。 ●聴き合いながら、音遊びを楽しむことができるようにする。	○楽器の音に親しみ、演奏に慣れる。 ○運指に気を付けて演奏する。 ○簡単な旋律づくりやリズム遊びを楽しむ。
	いいおとみつけて ◎おもちゃのシンフォニー ○おとのマーチ	●いろいろな音に興味を持ち、音色に注目して音楽を聴くことができるようにする。 ●いろいろな楽器の音に触れ、お気に入りの音や音楽に合う音を見つけることができるようにする。	○いろいろな楽器の音に注目して聴いたり、音の出し方を見つけたりする。 ○イメージに合う音を見つけ、歌に合わせて演奏する。

後期	【おとのスケッチ】 ○がっきをつくってみよう	● いろいろな音に興味・関心をもち、演奏の仕方を工夫して、楽器を作ったり音遊びをしたりすることができるようにする。	○ 素材によって音が変わることや、いろいろな演奏に気付ながら、身の回りのもので楽器を作る。
	ようすをおんがくで ○ おどる こねこ ○ すずめが ちゅん ○ おもちゃの ちゃちゃちゃ ○ おもちゃの へいたい	● 旋律の変化や反復を捉え、楽曲のよさや面白さに気付くことができるようにする。 ● 歌詞や楽曲の気分を生かして表現を工夫することができるようにする。 ● 旋律や音の反復に気付き、様子を思いうかべて聴いたり、演奏を工夫したりすることができるようにする。	○ 繰り返し出てくる旋律や音色に気付いて聴く。 ○ 様子を思い浮かべて表現を工夫する。 ○ 身体表現を通して、曲想と音楽を形づくっている要素とのかかわりに気付く。
	みんなのおんがくパーティー ○ フルーツケーキ ○ アイアイ	● 拍の流れを感じ取って、リズム表現を楽しむことができるようにする。 ● 歌い方や体の動きを工夫し、友達と一緒に表現する喜びを感じることができるようにする。	○ 拍の流れにのって、言葉のリズムを工夫する。 ○ 楽しい表現や歌い方などを見合って、交互唱する。

評価の観点・方法

(1) 評価の観点 【音楽への関心・意欲・態度】 音楽に対する興味・関心をもち、進んで音楽活動を楽しもうとする。 【音楽的な感受や表現の工夫】 楽曲の気分や音楽を特徴付けている要素を感じ取り、それらを生かした表現や鑑賞の工夫をしている。 【表現の技能】 模範の演奏を聴いて演奏したり、リズム譜に親しんだりするとともに、自分の歌声や発音に気を付けて歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。 【鑑賞の能力】 音楽を特徴付けている要素に気を付けながら、曲の気分を感じ取って聴く。	(2) 評価の方法 音楽科では、行動の観察、表現、鑑賞のワークシートなどを手がかりにして、子どものよい点や進歩の状況などを評価します。
--	---

特色ある学習方法

(1) リズム感覚を中心として、音楽表現の基礎的な能力を伸ばしていきます。 音楽がきこえてくると自然に体が動き出す、音楽を体全体で感じ取り音楽との一体感を求めていく、本校ではこうした子どもの姿を大切にして学習を進めます。
(2) 本校では、けん盤ハーモニカの学習を1年間通してしていきます。 自分の耳と目と指を使いながら、音に対する感覚を育成していきます。
(3) 音楽の時間に扱う音は、声や楽器の音に限ってはいません。 子どもの身の回りの音も学習の対象です。耳を澄ますといろいろな音がきこえてきます。大きな音、小さな音、長い音、短い音などこうした音の違いに気付いていくことは、これからの音楽活動を進めていく上で大切な力となっていきます。このことは、題材「いいおとをみつけてあそぼう」で、主に学習します。

使用教材等

○ 教科書「おんがくのおくりもの1」(教育出版) ○ CD, ビデオ, 歌集, 楽器など

留意事項

(1) ご家庭でのけん盤ハーモニカの練習にご協力をお願いします。 けん盤ハーモニカの宿題を出すことがあります。タンギングや指使いに気を付けて練習できるように、ご家庭でも励ましてあげてください。
(2) 保護者の方がご存知の手遊びうたやわらべうたなど、ご家庭でも一緒に歌ってみるのもいいですね。遊びながら自然に拍の流れを感じ取っていくことができます。

